



平成9年度フレンドシップ事業「森と川から郷土を学ぶ」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村田, 文江 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9257

平成9年度フレンドシップ事業「森と川から郷土を学ぶ」

1. フレンドシップ事業について

文部省では、平成9年度から新たに教員養成学部フレンドシップ事業等促進経費を計上しました。その趣旨は、教職を志す学生が、児童生徒とともに体験活動を行うことによって子ども理解を深め、実践的指導力の基礎を涵養することにあります。体験活動としては、自然体験学習、宿泊学習、あるいは大学の施設を利用した実験教室などがあげられています。

北海道教育大学は、この趣旨をふまえて札幌校、旭川校、岩見沢校が事業計画を申請しました。

2. 岩見沢校のフレンドシップ事業

岩見沢校は地方都市にある利点をいかして、教官や学生が市内のさまざまな団体・組織や市民活動に参加するなど、日ごろから地域との連携がなされています。また、附属学校をもたないなかで教育実践を推進するために、市内および近隣市町村の小中学校と研究協力校制度を設けています。事業計画をつくるにあたり、こうした岩見沢校の特色をいかし、統一テーマを「森と川から郷土を学ぶ」として次の三つの事業を実施しました。

(1) 幌向川のはたらきと人々のくらし

授業科目：社会科セミナーA・社会科教育演習I 受講生18名（担当教官 村田 文江）

実施期日：8月21日 実施場所：幌向川流域（幌向川ダム～美流渡橋～夕張川合流点）

参加児童：岩見沢市立朝日小学校・上志文小学校の全学年22名

指導協力者：岩見沢河川事務所職員

(2) トネベツの森の野鳥－巣箱作りと巣箱かけ

授業科目：生物学実験IB・生物学基礎実習 受講生17名（担当教官 芳賀 卓）

実施期日：9月28日、10月12日

実施場所：岩見沢郷土科学館、利根別原生林ウォーキングセンター、利根別自然休養林

参加児童：郷土科学館友の会ジュニア会員（市内の小学生）28名と保護者

指導協力者：岩見沢野鳥の会会員・岩見沢郷土科学館指導員

(3) 千歳サケふ化場および千歳サケふるさと館見学

授業科目：理科教材研究D 受講生23名（担当教官 榊原 郁子）

実施期日：11月8日

参加児童：岩見沢市立幌向小学校5・6年生43名

指導協力者：幾春別川をよくする市民の会会員

3. 成果と課題

紙数の都合でそれぞれの内容は省略しますが（『事業報告』参照）、三つの企画とも、子どもたちは楽しく学び、学生たちとも仲良く交流しました。学生は1・2年生が多かったせいか、最初は不安感もありましたが、子どもたちの伸び伸びとした姿や、子どもらしい見方や感じ方に新鮮な驚きをもったようです。感想には、子どもとコミュニケーションできた喜びを通して、教員養成大学の学生としてのあり方を問い直す契機となったこともつづられています。その意味で、教育実習前に子どもたちとふれあう機会をもつことは、貴重な体験となります。

本年度は試行でもあり、授業科目としての位置づけ、協力校・組織への依頼など、今後検討すべきことがたくさんあります。また、実施方法、内容の構成についても、地域の団体・組織と協議するなかで、より多くの学生が参加できるようにしたいものです。

文責 村田 文江